

あの日の事を思い出して

3年前のあの日（3月11日）に起こった地震は、私たちの想像を超える大きな被害と原発事故の重い影を落としました。

3年前の東日本大震災の発生直後は、停電や断水、ガソリンなどの燃料の不足、また、原発事故による放射線の不安などにより食料などの流通がストップしました。

余震も断続的に続き、その不安などから最大17カ所の避難所を開設し、延べ約12000人の方が避難しました。

町民のみなさんからも、あの体験を通して「前もっているいろいろ備えておけば良かった」と聞くことがあり

ます。震災時周りの状況が分からなくて、苛立ち、不安にかられた人も多かったと思います。

また、災害は地震だけではなく、大雪です。先月14日から降り続いた雪は多くの人々の生活に影響を及ぼしました。幸い国見町においては、今回の大雪で断水や停電の被害はありませんでした。

もし、断水や停電、流通が止まったら、私たちは何を備えておけばよいのか。家族との連絡方法はどうす

るのか。など再確認していませんか。「この大雪にあの地震に直面したら・・・」

今回の大雪では、震災の教訓を活かし、早い段階で国見町日赤奉仕団による炊き出しが始められ、長時間車内に閉じ込められている方に対して避難所を開設することができました。今回迅速に対応できたのも、あの日の出来事があったから。

震災の事を忘れたいと思っている人も多いと思

ます。でも、心の片隅であ

の日、あの時の出来事をもう一度思い出してください。それが、あなた自身の防災や減災につながるのではないのでしょうか。

震災は、私たちが体験したことのないものでした。現在町では、あの時の対応を評価し検証を行っています。新たな災害に対し適切に対応するための国見町地域防災計画の見直しに努めていくこととしています。新しい地域防災計画ができ次第お知らせします。

ご存知ですか？

「自分の住む地区の避難所」

大震災、大雪などによりライフラインが止まってしまい、自宅での生活が困難な時はどうすればいいのでしょうか。

まず、自分の地区の指定避難所がどこにあるのか確認しておきましょう。また、避難経路などに災害の起りやすい危険箇所があるかなども確認しておきましょう。

地域では、一人暮らしの高齢者や一人で避難することが困難な方についても、把握しておき、いざという時に避難を支援する体制を確認しておきましょう。

さらに、地域でも食料などの備蓄を行うことで、個人や家庭の不足を補うことができます。地域の実情に合わせて、災害時の活動に必要な機材なども準備できれば良いでしょう。

一人の力ではできないことも、地区で協力すること



- 1 3 5 町内被害状況
- 2 東北新幹線被害状況
- 4 観月台文化センター体育館避難の様子
- 6 役場議場の様子
- 7 液状化で突き出たマンホール

により大きな力になります。互いを知ることによって効果が生まれ、地域の絆は強いものになります。

防災行政無線

町では平成22年11月から全世帯に戸別受信機の設置を行ってきました。現在の設置戸数は3028世帯。戸別受信機は、災害時などに情報を得る大切な役割を果たします。午前6時の時報チャイムが鳴れば正常に機能しています。もし、時報チャイムが鳴らない場合は、住民生活課までご連絡ください。

災害に遭ってもあわてないために

◎ご自分自身及び家族の生命と健康を守るのに必要な備蓄品等

- ①飲料水（3日分、1人当たり9ℓ）
- ②食糧（3日分、1人当たり9食）
- ③災害用簡易トイレ及びトイレトーパー
- ④乾電池タイプ又は手動発電機付きの懐中電灯、ランタン及びラジオ、乾電池
- ⑤医薬品等
- ⑥防寒用ブランケット、レインコート
- ⑦ヘルメット、軍手及び安全靴又は長靴等
- ⑧除菌液 ⑨笛 ⑩使い捨てカイロ
- ⑪使い捨て下着
- ⑫衛生用品（ドライシャンプー、ウェットタオルなど）
- ⑬紙製食器、調理器具等
- ⑭非常持出袋等

すべて一度に揃えるのは費用もかかり、置き場所も考えなくてはなりません。各ご家庭の実情を考えながら、少しずつでも備蓄を進めていただければと考えます。



各世帯に設置されている防災行政無線

◆問い合わせ 住民生活課
585・2116